

小阪憲司+羽田野政治●著

レビー小体型認知症家族を支える会●編集



# レビー小体型認知症の

介 護 が わ かる



ガ イ ド ブ ッ ク



こうすればうまくいく、**幻視・パーキンソン症状・生活障害**のケア

アルツハイマー型よりも難しい、  
レビー小体型認知症の介護。

「どうしよう?」「困った…」に対する具体策を徹底解説!

幻視

パーキンソン  
症状

認知の  
変動

レム睡眠  
行動障害

抑うつ

薬に過敏

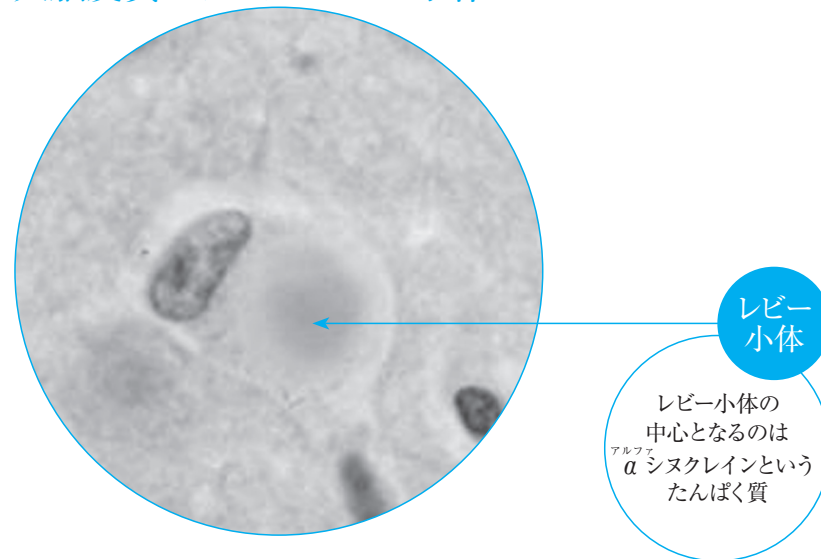
## レビー小体型認知症とは

レビー小体型認知症の脳では、「レビー小体」という特殊な円形物質（神経細胞の中にある封入体とよばれるもの）が、中枢神経系を中心に多数みられます。このレビー小体が脳皮質に広範囲に出現すると、その結果、レビー小体型認知症になります。

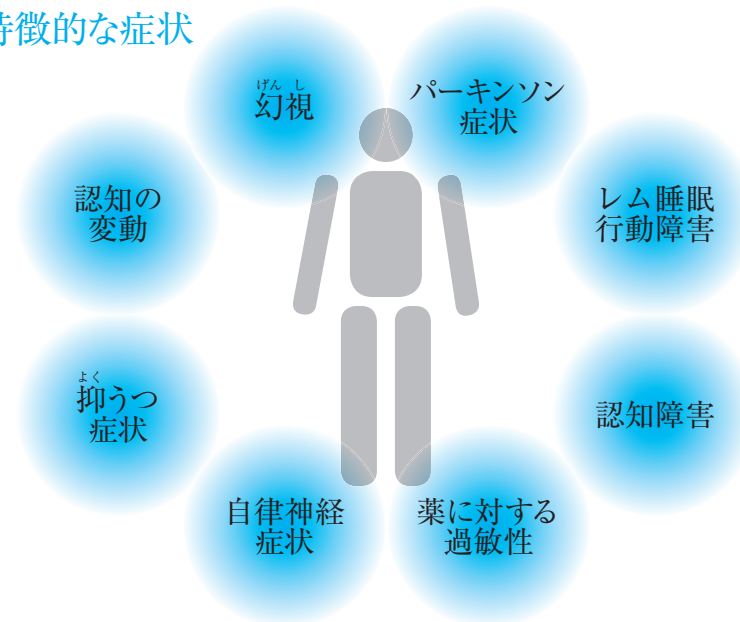
レビー小体型認知症は、認知症の一種ですので、記憶障害や理解力・判断力の低下などをきたします。ただし、初期から中期にかけては、記憶障害はあまり目立たず、幻視や認知の変動、パーキンソン症状、レム睡眠行動障害、抑うつ症状、自律神経症状など、特徴的な症状がさまざまにあらわれます。また、レビー小体型認知症は、薬に対する過敏性が高い（副作用が出やすい）ことも、特徴の1つです。その意味で、アルツハイマー型認知症などとは異なる点が多くあります。



## 大脳皮質にみられるレビー小体



## 特徴的な症状



## 幻視は本人にはありありと見える

幻視とは、「ネズミが壁を這いまわっている」「知らない人が座敷に座っている」「子どもたちがベッドの上で遊んでいる」など、実

### 幻視の例

動物に関するもの	ネズミが壁を這いまわっている
	へびが天井に張りついている
	ご飯の上に虫がのっている
人に関するもの	知らない人が座敷に座っている
	おばあさんがこちらを見て立っている
	子どもたちがベッドの上で遊んでいる
	兵隊がゾロゾロやって来る
	□□さん[知人、家族、他界した人など]が遊びに来ている
	誰かがベッドで寝ている
	窓から男の人が入ってくる
女の幽霊が現れる	
環境に関するもの	大きな川が流れている
	床が濡れている、水たまりができています
	光線が飛んでくる
	きれいな花が咲いている
	物が吸い込まれていく

際には見えないものが本人にはありありと（いきいきと）見える症状です。この幻視というのは、レビー小体型認知症に極めて特徴的なものです。

レビー小体型認知症の人それぞれで見えるものは異なりますが、対象の多くは、虫や小動物、人などです。それらは動きを伴います。人が見えるという場合、相手を特定できることもあれば、「顔がはっきりしない」「仮面をかぶっているよう」などと表現されることもあります。一般に色彩ははっきりしていることが多いものの、白黒で見えるという人もいます。影になっている場所や、暗い隙間を指さしたり、のぞきこんだりして、「あそこにいる」などと話すレビー小体型認知症の人もよくみられます。

アルツハイマー型認知症では、こうした幻視がみられるのは、せん妄\*のときを除いてまれです。また、アルツハイマー型認知症との比較でいえば、レビー小体型認知症では記憶障害が軽い人が多くいるため、本人が幻視の様子を、数日経っても正確に語れることがよくあります。

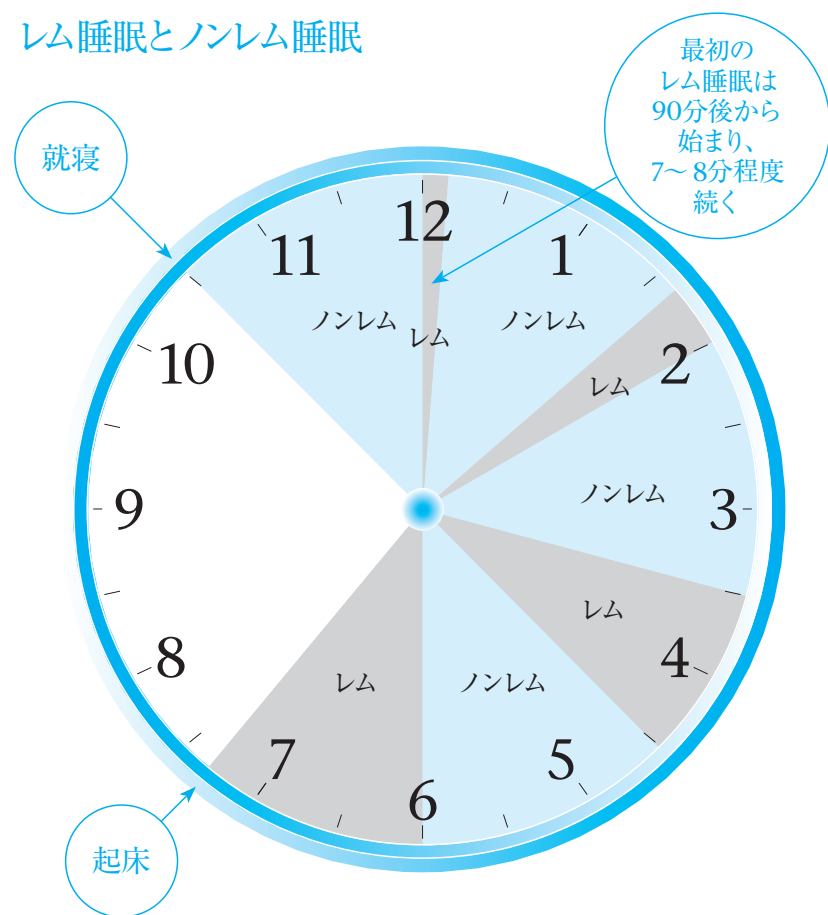
#### \*せん妄

意識障害の1つで、意識レベルが低下することによって、実在しない人や物が見えたり、怖がったり、騒いだりするもの。後で尋ねてみても、本人はそのことを覚えていない。認知症の人では、夜中に起こることがしばしばある（これを夜間せん妄という）。



てはまらない場合もでてきますが、こうした周期を頭に入れておき、睡眠時の異常行動が、レム睡眠の最中に起こるということをまず覚えておきましょう。

### レム睡眠とノンレム睡眠



## レム睡眠行動障害がみられた場合は

左の図のように、最初のレム睡眠は、就寝してからノンレム睡眠を経て約90分後にやって来ます。このときに大きな寝言や奇声などの異常行動がみられることがあるわけですが、だいたい10分以内に治まるはずで、ですから、暴れて危険なことがない限り、そっと見守っていればあまり問題にはなりません。

朝方の場合はどうしたらいいのでしょうか。朝方のレム睡眠の時間は長いため、10分以上待ってもレム睡眠行動障害が止まないことがあります。したがって、この場合は起こすのも1つの方法です。ただし、体をゆすって急に起こしてはいけません。なぜなら、悪夢と現実が混同してしまい、混乱や興奮が高じる場合があるからです(まれに心筋梗塞などをきたすこともあります)。

具体的な対応方法としては、部屋の電気をつけて明るくしたり、懐中電灯を顔に当てたりして、自然に目を覚まさせるようにします。また、目覚まし時計やキッチンタイマーなどを用いて覚醒を促すのも手です。こうした音は、ダイレクトに脳内に届くため、「起きてください」「朝ですよ」といった声かけよりも有効です。